

教員養成における外国語 活動作成指導について

執行智子(東京未来大学こども心理学部
shigyotomoko@gmail.com)

カレイラ松崎順子(東京経済大学現代法学部
junko.carreira@gmail.com)

背景と子どもの学び

現行学習指導要領・生きる力

(第1章 総則 第1 教育課程編成の一般方針)

「学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、児童に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。その際、児童の発達の段階を考慮して、児童の言語活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、児童の学習習慣が確立するよう配慮しなければならない。」

→問題解決型

プロジェクトの特徴

(MacDonell, 2007, p. 14)

1. the topics are directly relevant to the child.
2. The children are motivated to learn because the topic is meaningful to them.
3. The project approach places emphasis on first-hand experience.

小学校学習指導要領解説 外国語活動編

(3. 指導計画の作成と内容の取扱い p. 16)

「1(4)指導内容や活動については、児童の興味・関心にあつたものとし、国語科、音楽科、図画工作科などの他教科等で児童が学習したことを活用するなどの工夫により、指導の効果を高めるようにすること。」

→教科横断型

クロスカリキュラムの特徴

- 動機づけをあげ持続させる

(Barnes, 2015)

- 自然界、社会、自分の関係を理解させる

(Barnes, 2015)

子どもの学びを活かす外国語活動

- 問題解決型
- 教科横断型

➡ クロスカリキュラム的プロジェクト

先行研究

Matsumiya (2010)

小学校で英語指導法のシラバスの効果を検証

1. シラバス(3部構成)

- ゲームや歌など外国語活動で使用するアクティビティを体験する
- 担任教員がすべきことについて思考し外国語活動の実践を深く理解する
- 模擬授業と評価

2. 方法 コース終了後にアンケートをとった

3. 結果

- 95%以上の学生・・・英語を教えることに対して興味が増した
- ほとんどの学生・・・英語を教える意欲が増した
- 65%(2007)、70%(2008)・・・英語を教える自信が増した

4. 考察

- シラバスに効果的に内容を盛り込むことで担任がすべきことを理解した
- シラバスに効果的に内容を盛り込むことで小学校では担任は高い英語力を求められているとは限らないとわかった

➡不安が軽減された

リサーチクエスト

子どもの学びを活かす外国語活動(クロスカリキュラム的プロジェクト)を作成できるように組み立てた教員養成課程のシラバスを

1. 小学校教員養成課程の学生と中学校高校英語教員免許取得科目の学生はどのように思うであろうか
2. そのとらえ方はどのように違うであろうか。

本研究

目的

教員養成における外国語活動(子どもの学びを活かす外国語活動—クロスカリキュラム的プロジェクト)作成を参加者である学生はどのように思ったかを明らかにし、教員養成における指導法科目の内容を考察する。

参加者

- A: 東京近郊私立大学小学校教員養成課程小学校教員免取得予定者 3年生 31名 (男子21名 女子10名)
- B: 東京都内私立大学教養系学部中高英免取得予定者 2～4年 10名 (男子5名 女子5名)

方法

コース最終回にアンケートをとり質的に分析した。

質問項目：

1. 子どもの学びを活かす外国語活動(クロスカリキュラム的プロジェクト)は作りやすさはどんなところですか。
2. 子どもの学びを活かす外国語活動(クロスカリキュラム的プロジェクト)を作成する面白さは何ですか。
3. 子どもの学びを活かす外国語活動(クロスカリキュラム的プロジェクト)は使いやすさはどんなところですか。

結果および考察

A 小学校教免取得予定者		B 中高英免取得予定者	
Yes	40	Yes	4
組み合わせること	14	学習者のレベルが高ければ作りやすい	1
広がる	8	教員の英語力が高ければ作りやすい	1
資料の多さ	5	英語で考えさせるから作りやすい	1
わかりやすい	4	慣れれば作りやすい	
初めからやらなくてもよい	2	No	9
英語のイメージがない	2	言語と子どもの興味を引くものをつなげるのは難しい	3
自分の好きなこと学んできたことを活かす	2	interaction まで考慮に入れなければならないので	2
先を見据えることができる	1	初級レベルの学習者では限定的な内容になる	1
興味を引く	1	MI を考慮に入れなければならないので	1
英語と関連する教科がある	1	目標言語を目標言語で教えるので	1
		子どもを教えたことがなかったので	1

1. 子どもの学びを活かす外国語活動(クロスカリキュラム的プロジェクト)は作りやすさはどんなところですか。

A小学校教免取得予定者は、英語学習と他教科を関連させて広がりを持たせることによって児童にはわかりやすくなると思っているが、B中高英免取得予定者は初級者では広げることは難しく、児童の興味を引くようなものを作ること自体が難しいと思っている。

結果および考察

A 小学校教免取得予定者		B 中高英免取得予定者	
Yes	40	Yes	10
応用・可能性	8	新しい試み（英語だけでなく他の教科も）で興味がわく	5
他教科関連の知識を使う	7	社会で使える実用的なスキルが養える	3
興味・関心がわく	5	言語を使った activity を考えるから	1
英語だけでは気づかないことに気づく	5	思考や使用を含んだ activity を考えるから	1
自由に作れる	5	No	3
子どもの身近な内容	5	学問的	1
他教科の知識も養う	3	ワクワクしない	1
参加できる	1	学習者の動機をあげるようにうまくは行かない	1
先生と生徒と一緒に授業を作る	1		

2. 子どもの学びを活かす外国語活動(クロスカリキュラム的プロジェクト)を作成する面白さは何ですか。

A小学校教免取得予定者もB中高英免取得予定者も目標言語を使用しながら学び、またその他の知識や思考することもできることを肯定的にとらえているものもいるが、B中高英免取得予定者ではワクワクしないと思っているものもいる。

結果および考察

A 小学校教免取得予定者		B 中高英免取得予定者	
Yes	42	Yes	2
他教科の既習内容を盛り込める	9	教員が英語で教えることができれば	1
他教科と連動させる	9	教員が知識をもっていれば	1
児童の実態に合わせる	8	No	12
児童の興味・理解を引き出せる	5	英語力が高くないので	4
activity が作りやすい	4	児童や ALT のサポートをしなければならないので	2
内容を発展させられる	3	ALT を雇わなくてはならないので	2
担任教員の専門分野を活かせる	1	クロスカリキュラムで教案を作るのは難しい	1
参考資料を入手しやすい	1	学習者のレベルを考慮に入れなければならないので	1
他教科の授業に活かせる	1	ジェスチャーや表情を使わないと学習者が理解できない	1
カリキュラムも柔軟に変えられる	1	学習者の知識が不十分なので言語とつなげるのは難しい	1

3. 子どもの学びを活かす外国語活動(クロスカリキュラム的プロジェクト)は使いやすさはどんなところですか。

A小学校教免取得予定者は、全教科を持つことから他教科との関連に焦点を当てて使いやすさを挙げているが、B中高英免取得予定者は英語力がなければ内容を教えることは難しいと考えており、環境の整備面に焦点を当てている。

まとめ

A小学校教免取得予定者、B中高英免取得予定者ともに、子どもの学びを活かす外国語活動(クロスカリキュラム的プロジェクト)に興味を示し、活動を作ることは面白いと感じている。また、A小学校教免取得予定者は子どもの学びを活かす外国語活動(クロスカリキュラム的プロジェクト)を作りやすい、使いやすいと思っている一方、B中高英免取得予定者は作ったり使ったりすることには抵抗を感じているようである。これはA小学校教免取得予定者は全教科を担当することができるために、英語と他教科を関連付けることがたやすく思える一方、英語のみを担当するB中高英免取得予定者にとっては、児童が他教科で何を学んでいるか知らないということに起因するからであろう。A小学校教免取得予定者は子どもの学びを活かす外国語活動(クロスカリキュラム的プロジェクト)を受け入れやすいが、B中高英免取得予定者は指導者や学習者の英語力に注目が多く及んでおり、A小学校教免取得予定者よりも受け入れにくいように見受けられる。

今後、日本の初等英語教育では、子どもの学びを活かすように作成されるべきであり、これを支えていくのは英語教員ばかりでなく、小学校教員と連携を図り、それぞれのよい点を生かしていくべきである。

References

Barnes, J. (2015). Cross-curricular learning 3-14, California: Sage Publications Ltd.

MacDonell, C. (2007). Project-based inquiry units for young children : First Steps to Research for Grades Pre-K-2. Ohio: Linworth Pub Co

松宮奈賀子(2010)「小学校教員を目指す学生の外国語(英語)活動に関する演習科目」履修がもたらす学生の変容」, Journal of Quality Education Vol. 3, pp. 111-134, from http://sfi-npo.net/ise/quality_education/no3_downloadfile_8.pdf#search=%27http%3A%2F%2Fsfinpo.net%2Fise%2Fquality_education%2Fno3_downloadfile_8.pdf.

文部科学省(2008)『小学校学習指導要領』from http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/sou.htm

文部科学省(2008)『小学校学習指導要領解説 外国語編』東洋館出版社.